

コントラクター 成るの機械的条件

「量」から「質」へ、
サービスの深化をめざして

特集
1



▲女性オペレーターを含め十数名の従業員が年間通してフル稼働するという北海道の先端的コントラクター(株)加藤リースのメンバー(左から二人目が加藤社長)



「コントラクター」の時代が始まった

いま、各地で一般的な農作業の請け負いは、機械の償却を早める手段として行われるか、「経営請負」という形をとった農業経営規模の拡大として行われている。

経営においては専業的経営を可能にするひとつの条件になつてきている。

そして今、さらに作業請負を「業」として発展させた「コントラクター」(請負)

耕作業者」の時代が始まろうとしている。いうならば農家を顧客として農作業サービスを「業」として提供する専業者である。現状では数少ない例外を除き、

専業的なコントラクターとの区別は明確ではない。ただし、このニュービジネスの成功者となる最も近い場所にいる者は、地域社会において農村社会や農民の心

のヒダが読み取れ、土と作物が見える農業経営者たちであろう。さらにいえば、「サービス業者」としての健全な事業者マインドを持った地元の農業出身者である。

資本調達の問題などはあるにせよ、その事業的 possibility は隣近所を見回せば、そのニーズの大きさはすぐに見て取れるはずである。そして遅かれ早かれ業者間の

顧客に満足を提供するサービスの「質」

機械の選択の基準は、時間当たり処理量や

売手市場の今はともかく、コントラクターを目指す人ばかりでなく、これから作業請負を経営的に成り立たせるために単なる処理能力の「量」として請け負う作業が語られるだけでなく、そのサービスの「質」の高さが問われるようになる。例えば提供するサービスに対する収益性のある料金設定を顧客に納得させることなどのためにある。言い換えれば、単なる「労役」の提供として「請け負い」があるだけでなく顧客に「経済的実利」や「心理的満足」を与える、さらに農作業あるいは栽培や経営についての「コンサルタント」的性格を持ちえる人であることが要求されるのではないだろうか。

その意味合いで、作業手段としての機械を選択の基準は、時間当たり処理量や負担面積など「量」的な処理能力の大きさだけではなく、むしろ、顧客に満足を提供できる作業の「質」、サービスの「質」を実現できる機種選定と作業の品ぞろえが必要になるのではないか。

さらに通年営業、従業員の雇用を確保するための作業種類の多様化は、コントラクターの事業的成立の基本的課題にははずである。

コントラクター成立の社会・経済的背景を語るのがこの記事の目的ではない。

特に前記の問題意識のうえに立って、栽培の質的向上や季節的な業務拡大に役立つと思われる機械類を紹介してみたい。

多様な作業での利用が可能であるが、とりわけ耕耘、代かき、心土破碎、融雪剤散布等の作業ではとくにけん引力が大きく接地圧の小さいゴムクローラーであるこのメリットが出る。雪国での利用に限られるが、クローラーだから可能な積雪

ゴムクローラトラクタ

▲写真1 ゴムクローラトラクタ(モロオカ)



競争状態が出てくるはずである。作業の季節性が問題になるというのであれば、機械レンタルとの組み合わせや、地域に合った遊休期間を埋める仕事を作ればよいだけである。それを考えるのが経営者の仕事であろう。

さらに、あえて言えば、そうしたサービスは公的あるいは協同組合的サービスというより、私的事業者の健全な競争の中で供給されていくことの方が、結局は農業のトータルコストを下げていくことにつながるのではないか。

变速はHSTの無段变速であり、PTOも油圧駆動である。型式としては、三〇馬力から二五〇馬力まで一四型式がある。個々の装備について言えば標準的なトラクタに見劣りする面があるとしても、トラクタとして必要な基本的な機能は十分なものがあり、特に一〇〇馬力で六八〇万円と通常のトラクタと比べて馬力当たり単価が安く、耐久性も高いという点でも注目したい。

(株)諸岡＝茨城県龍ヶ崎市小通幸谷町二八八〇二九七一六六一一一。

耕起作業

クローラー用多連プラウ



▲写真2 雪の上からの作業なので土を傷めず心土破碎できる

水田での利用を想定した一二、三インチ程度から畑用のもっと大きな規格まで、またトラクタサイズに合わせた製造が可能だという。機械の値段はトラクタに合わせて都度見積もりである。

スガノ農機㈱＝茨城県稲敷郡美浦村大字間野八〇二九八一八六一〇〇三一。

地下休閑リバーシブル・プラウ

土層改良作業

石礫除去作業

ストーン(ロック)ピッカ

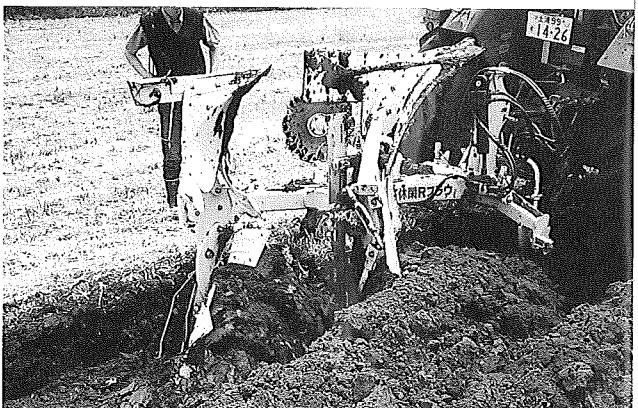
水田や畑の石を除去する機械で特にイモ類のハーベスターを使う作業体系の地域では必要になると思われる。この機械についてはメーカーを含めて土地改良公社等の団体でないと事業的に引き合わないという声もある。また、石礫除去より客土による改良の方が良いという意見もある。

だが、北海道旭川近郊で農家の請負作業から発展して、今では十数名の従業員を抱えて機械レンタルを含めたコンントラクターを営業する(株)加藤リース(上川郡劍淵町八〇一六五一三四一三〇五一・加藤 健一社長)によれば事業的に成り立つという。

ロックピッカは、大型トラクタで引し、コンベア式の掘り取り部と石と土砂を分離するドラム式のフルイが組み



▲写真3 トラクタ幅に丘引きにできる多連プラウ(スガノ・特注品)



▲写真4 上層と下層の土壤をすっかり入れ替える地下休閑耕用のリバーシブル・プラウ(スガノ・特注品)

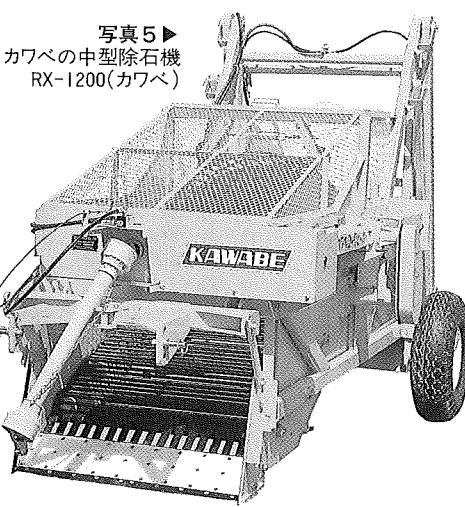


写真5▶
カワベの中型除石機
RX-1200(カワベ)

合わされた形式のものが多い。また、取り出した石を積み替えるリフト装置を持つものが多い。機械の性格上、部品調達の手立てとかなりのメインテナンス能力がないと使えないと思う(写真5)。

前記のゴムクローラー用多連プラウは、標準品での各種作業機の利用ももちろん可能であるが、写真3のように丘引きにして土層改良するものである(写真4)。

特注品で価格は都度見積もりとなる。

スガノ農機㈱＝前出。

野菜産地などでの土壤障害が極限まで悪化した場合など、バックホー等で天地返しをするケースがあるが、それを二段起こしにするプラウによって、簡単に行うというものである。これは、單にプラウで反転耕をするということではなく、上下二層の土層を入れ替えるようにして土層改良するものである(写真4)。

ロックピッカは、大型トラクタで引し、コンベア式の掘り取り部と石と土砂を分離するドラム式のフルイが組み

大型マニユアル・フレッダ

堆肥散布作業では、遠距離運搬と高能

一五七一二三一四四九三。
(株)イダ＝北海道北見市本町四一七八〇
川辺農研産業㈱＝東京都稲城市矢野口二二一九八〇四二三七七一五〇二一。
松山㈱＝長野県小県郡丸子町塩川五一五五八〇二六八一四二一七五〇〇。

率散布が求められる。

まず、長距離運搬での便利を考えたトラック積載型のマニュアスプレッダをデリカで発売している。同社のDXS-1100Bという型式は、二～三tトラックに積載する

二t用の機械で、最大九馬力のエンジン付き。使用するトラックは四駆、微速(副変速)付きのものが望ましい。機械の価格は一四九万円(写真6)。

同社では、最大六〇馬力のエンジンを付けたクローラ運搬車に積載量三tのマニュアスプレッダを搭載させた機械も作っている。これは、自走マニュアスプレッダDAM-13000というもので、価格はビーダの仕様による違いはあるが五〇〇万円前後(写真7)。

株式会社デリカ(長野県松本市大字和田五五一一六〇二六三一四八一一一八〇)。ニユアスプレッダを搭載させた機械も作っている。これは、自走マニュアスプレッダDAM-13000というもので、価格はビーダの仕様による違いはあるが五〇〇万円前後(写真7)。

株式会社デリカ(長野県松本市大字和田五五一一六〇二六三一四八一一一八〇)。ニユアスプレッダを搭載させた機械も作っている。これは、自走マニュアスプレッダDAM-13000というもので、価格はビーダの仕様による違いはあるが五〇〇万円前後(写真7)。

ニユアスプレッダを搭載させた機械も作っている。これは、自走マニュアスプレッダDAM-13000というもので、価格はビーダの仕様による違いはあるが五〇〇万円前後(写真7)。

▲写真9 超高圧縮ビッグベーラ(ビコ)

8

▼写真7 自走式大型マニュアスプレッダ(デリカ)



同社では、最大六〇馬力のエンジンを付けたクローラ運搬車に積載量三tのマニュアスプレッダを搭載させた機械も作っている。これは、自走マニュアスプレッダDAM-13000というもので、価格はビーダの仕様による違いはあるが五〇〇万円前後(写真7)。

同社では、最大六〇馬力のエンジンを付けたクローラ運搬車に積載量三tのマニュアスプレッダを搭載させた機械も作っている。これは、自走マニュアスプレッダDAM-13000というもので、価格はビーダの仕様による違いはあるが五〇〇万円前後(写真7)。

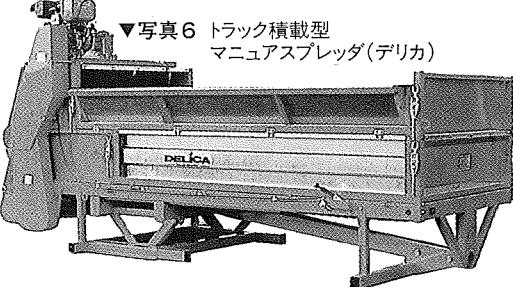
同社では、最大六〇馬力のエンジンを付けたクローラ運搬車に積載量三tのマニュアスプレッダを搭載させた機械も作っている。これは、自走マニュアスプレッダDAM-13000というもので、価格はビーダの仕様による違いはあるが五〇〇万円前後(写真7)。

畠畔成形、いわゆる畠塗り作業は請負作業といわず、今の稻作の中で最も求められている機械ではないのだろうか。多くの水田で、畠の管理が不十分であるために、機械で踏み固めて排水不良になつていてもかかわらず、畠から水もれし、水管理すらできなくなつていて水田も少なくない。その意味で、請負作業者のサービスの質を考えるなら、畠塗り機は極めて重要な機械だと思う。特に、現在の機械が、乾田状態で使える「畠叩き」

ロールベーラーの普及でかなり合理化されたとはいえ、サイレージ調整は刈り取りからベーラー、ハンドリング機器までの一掃いを個々の酪農家が保有し機械投資の負担が大きくなっている。そればかりでなく、少ない手間で限られた天候に作業を追われるため、調製サイレージの品質にも問題がでる。こうした環境の中で、飼作り(特に飼料調製)と飼養管理とが分業化、さらには調製されたサイレージを流通する可能性もある。

我が国でも、ヨーロッパでのコントラクター向けに開発された「超高压縮のビッグベーラー」を使用することで、それを事業化しようという人が出てきた。

この機械はビコンジヤパンが輸入している「超高压縮ビッグベーラーHP-1600」で、長さ一・六×幅一・二×高さ〇・七mというサイズの四角形の梱包を成形するもの(写真9)。この機械で成形



畠塗り機

畠塗り機

株式会社富士トレーラー製作所(新潟県西蒲原郡吉田町法花堂字浦畠四二二六〇二五六一九二一六六一)。

株式会社ヤンマー農機(大阪市北区茶屋町一三二六〇六一三七二一一一)。



▲写真9 超高压縮ビッグベーラ(ビコ)

株式会社富士トレーラー製作所(新潟県西蒲原郡吉田町法花堂字浦畠四二二六〇二五六一九二一六六一)。

株式会社ヤンマー農機(大阪市北区茶屋町一三二六〇六一三七二一一一)。